**立教大学学術推進特別重点資金（立教ＳＦＲ）**
**大学院生研究**
**２０１２年度研究成果報告書**

| | | | |
|---|---|---|---|
| **研究科名** | 立教大学大学院　文学　研究科　超域文化学　専攻 | | |
| **研究代表者** | 在籍研究科・専攻・学年 | 氏　名 | |
| | 文学研究科超域文化学専攻博士後期2年 | 名　村　優　子　印 | |
| **指導教員** | 所属･職名 | 氏　名 | |
| | 文学研究科超域文化学専攻<br>異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部　准教授 | 飯　島　みどり　印 | |
| **自然・人文・社会の別** | 自然　・　[人文]　・　社会 | **個人・共同の別** | [個人]　・　共同　名 |
| **研究課題名** | 1920～1930年代のブラジル日本移民による民間定住移住地建設の理想と現実 | | |
| **研究組織** | 在籍研究科・専攻・学年 | 氏　名 | |
| | 文学研究科超域文化学専攻<br>博士後期２年 | 名村優子 | |
| **研究期間** | 2012年度 | | |
| **研究経費** | 200千円（実績額又は執行額） | | |

**研究の概要**（200～300字で記入、図･グラフ等は使用しないこと。）

本研究の目的は、1924年にブラジルに建設された日本人定住移住地「アリアンサ」の建設理念と実態を明らかにし、日本社会、ブラジル社会、ブラジル日本移民社会それぞれとの関わりを検討することである。1920～30年代は、日伯双方が国家主義的な性格を強める中、日本の「国策移住」方針によって、日本からブラジルへの渡航者数が最盛期を迎えた時期である。本研究では、この時期キリスト教移植民団体の協力によって先駆的に建設されたアリアンサ移住地の理念と実態を、一次史料とフィールド調査から明らかにし、移住地建設の意図とブラジル社会およびブラジル日本移民社会における同移住地の位置づけを読み取る。

キーワード（研究内容をよく表しているものを３項目以内で記入。）

〔定住移住思想　〕〔日本の移民政策　〕〔キリスト教　〕

研究成果の概要（図･グラフ等は使用しないこと。）

今期の計画段階では、①アリアンサ移住地建設に関わる理念の整理、②ブラジル日本人定住移住地の類型化、③アリアンサ移住地内の諸集団・人間関係の類別整理、④アリアンサ入植者に関する資料収集、⑤ブラジルでの現地調査、の５項目を具体的な研究目的として挙げた。

まず、この５項目に沿って本年度の研究活動を概観した上で、その成果を述べたい。

①アリアンサ移住地建設に関わる理念の整理

この項目に関しては、移住地建設の主体である信濃海外協会が掲げた建設理念について、同協会幹事である永田稠の著した『両米再巡』から整理した。この資料からわかるのは、アリアンサ移住地建設の基本理念は入植者本位の「理想の移住地」の創設にある、という事である。それまでの日本移民にみられた出稼ぎ指向や無計画な集住を批判・反省した上で、計画的で無理がなく、教育・医療設備を持つ文化的な移住地を理想として、移住地が建設されたことがわかった。

一方、この建設理念に影響を及ぼしたと考えられる日本力行会の定住思想や、アリアンサ移住地以前に建設されたイグアッペ植民地の建設理念や、日本の協同組合思想については検討できなかった。

②ブラジル日本人定住移住地の類型化

戦前期、アリアンサ移住地のように日本の政府や民間企業が出資してブラジルに建設された農場や定住地は 20 カ所あり、これらは 11 の日本人定住入植地と 5 つの企業農場、4 つの農業教育・研究機関に分類される。（うち公的機関の出資によるものは 4 カ所。）これらの概要を整理し、全体像の把握に努めた。この結果、ほとんどの定住入植地や農場はアリアンサ建設以降に設立されており、特に公的機関出資により建設された移住地の先駆例であったことが確認できる。一方、アリアンサ移住地の特殊性も見て取れる。アリアンサは唯一、県主導の組合出資方式によって建設されており、建設主体である各県の海外協会は複数に渡っている。この状況は先駆事例ゆえの試行錯誤が重なった結果であり、建設後の困難もこの出資方式に起因していると考えられる。

③アリアンサ移住地内の諸集団・人間関係の類別整理

「中流の移住」というアリアンサの特徴を顕在化し、移住地内における行動や意見対立の構図を明確化するために、入植者の土地所有形態（自作・小作・不在地主など）や移住地運営における立場、出身地、宗教、産業組合や学校・病院など団体の構成員、といった属性ごとの整理を計画した。

このうち、自作・小作の別や、移住地運営に関わる自治会の構成員、また宗教に関してはキリスト教信者の把握はある程度達成できた。しかしその他の属性については整理が不十分であるため、今後も作業を継続し、それぞれの特徴の把握に努めたい。

④アリアンサ入植者に関する資料収集

個々の入植者の立場からアリアンサ移住地がどう認識されているかを捉えるため、入植者および家族の手記やインタビューを収集した。⑤のブラジルフィールド調査により 4 家族のインタビューと 2 家族の手記を入手できた。また、東京都練馬区にある日本力行会の資料から、2 家族の情報を得た。これらの資料は移住地の実情を把握する事例として重要であるが、統計的な分析材料としては不十分である。また、資料を得られた家族の入植地が移住地内に点在しているため、移住地内の地区を絞っての検討も難しい。これらの資料を活用するため、今後は地域・目的を限定した上での資料収集を検討したい。

⑤ブラジルでの現地調査

当ＳＦＲの渡航費補助を受け、2012 年 8 月 29 日より 10 月 12 日まで、ブラジル　サンパウロ州サンパウロ市とミランドポリス郡アリアンサで調査を行った。調査を通じ、『アリアンサ移住地「創設八十年」』ほか 23 点の書籍、「第一アリアンサ土地契約書」ほか 18 点の一次史料、アリアンサ入植者など 10 名のインタビューを得ることができた。この調査によって、上述④の入植者情報の他、アリアンサに開設されていた日本力行会の訓練農場「渡辺農場」についてのインタビューや、日本人集住地の類型に関する先行研究などが得られた。

研究成果の概要　つづき

※この（様式２）に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書（Ａ４縦型横書き１枚・自由様式）を添付すること。

**研究発表**（研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。）

①雑誌論文（著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ）
②図書（著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数）
③シンポジウム・公開講演会等の開催（会名、開催日、開催場所）
④その他（学会発表、研究報告書の印刷等）

②丸山浩明・名村優子 2013．ブラジルに渡った日本移民．
丸山浩明編『世界地誌シリーズ　ブラジル』所収　第九章，朝倉書店．（2013 年秋刊行予定、ページ未確定）

④日本移民学会第 22 回年次大会（2012 年 6 月 30 日・7 月 1 日）
自由論題報告「1920-30 年代における女性移民のブラジル渡航―「日本力行会」の移民送出事業―」